

リング型ワイヤロープユニットが 落石対策の可能性を広げる



リングカバー®工法はリングユニットを岩塊に被覆し、周囲に固定したアンカーと接続することで、リングユニットの交点強度とアンカーの支持力により、本来この結合を失った岩石を拘束する工法です。

Ring Cover

落石予防工 リングカバー®工法

Rockfall Prevention Works

“リングユニット”によりロープ掛工の問題点を解決

ロープ掛工の現場でこのような問題点、ありませんか？

- 岩塊が複数重なり合っており、一括での処理が難しい。
- 対象岩塊がロープを掛けにくい形状をしている。
- 横長の岩塊でロープの必要設置本数が掛けられない。
- ワイヤロープと固定地盤との角度が小さく、張力が過大になる。



「掛ける」から「覆う」へ「交点強度で荷重を担う」という発想

リングユニットで岩塊を被覆

リングカバー工法はリング型ワイヤロープユニットで岩塊を被覆しアンカーで固定する落石予防工です。

柔軟性のあるリングユニットは岩塊群をまとめて被覆することができ、一括で拘束し処理することができます。

例えば薄い板状や、甲羅のような形状の岩塊などのロープが掛けにくい場合でも「覆う」ことで抑止力を発揮します。

交点強度で耐力を発揮

リングカバー工法はリングの交点強度で耐力を示します。

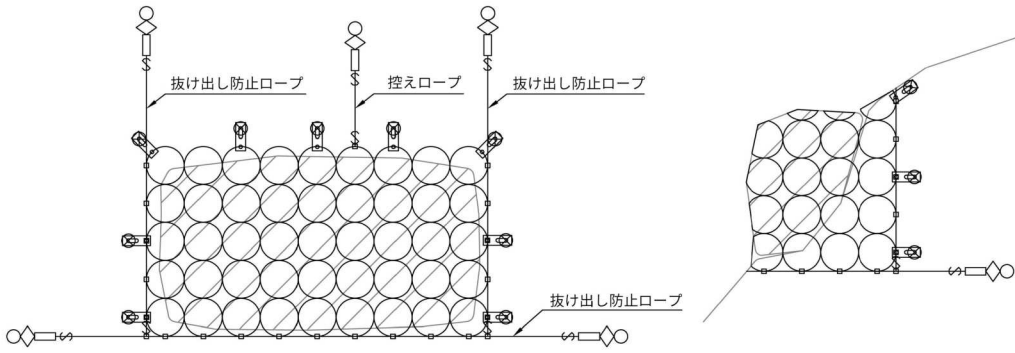
対象岩塊が横長になればなる程、交点数が増え許容耐力が増していきます。

また、アンカー設置箇所をリングユニット外周に任意で決めることができ、ロープ掛工のようにアンカー本数が限定されることがありません。

リング形状により荷重が各交点に分散されるため、固定地盤との設置角度が構造計算に影響しません。

Ring Cover

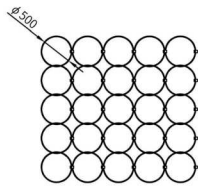
標準展開図



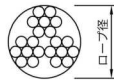
符号	部品名
	リングユニット
	ワイヤロープ
	巻付グリップ
	ターンバックル
	岩部用アンカー A
	岩部用アンカー B
	アンカー接続板
	アンカーバンド
	クロスクリップ

使用部品図

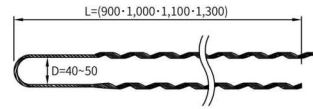
■リングユニット



■ワイヤロープ



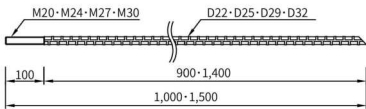
■巻付グリップ



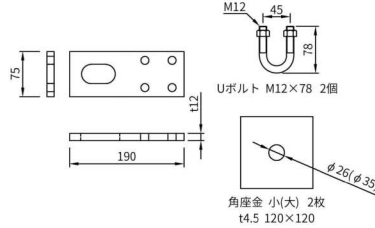
■ターンバックル



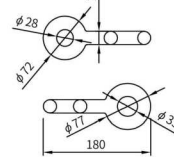
■岩部用アンカー



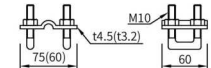
■アンカー接続板



■アンカーバンド

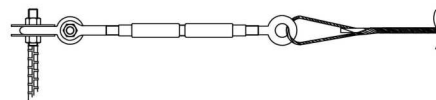


■クロスクリップ

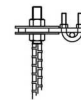


アンカー構造図

■岩部用アンカー A



■岩部用アンカー B



リングユニット	抜け出し防止ロープ	控えロープ	巻付グリップ	ターンバックル	岩部用アンカー	アンカー接続板	アンカーバンド	クロスクリップ
3×7 G/O φ 12-500	3×7 G/O φ 12	3×7 G/O φ 12	φ 12 用	φ 22 J&E	D22(M20)	t12×75×190	φ 22×180	小 t3.2×65×60
		3×7 G/O φ 14	φ 14 用		D25(M24)			
		3×7 G/O φ 16	φ 16 用	φ 25 J&E	D29(M27)			
		3×7 G/O φ 18	φ 18 用	D32(M30)				

※表面処理は亜鉛めっきを標準としています。その他の処理についてはご相談下さい。

総販売元

■日本植生株式会社 防災資材課

二色浜事業所	〒597-8501	大阪府貝塚市二色中町 11-1	TEL.072(432)9809	FAX.072(432)9128
東京営業所	〒120-0043	東京都足立区千住宮元町 13-13 千住M Kビル 3F	TEL.03(5244)1392	FAX.03(5244)1322
大阪営業所	〒564-0063	大阪府吹田市江坂町 1-14-33 TCSビル 3F-A号室	TEL.06(6388)8283	FAX.06(6388)8449